

やまぐちっ子 学力向上だより

第 6 0 号 H26.9.1

山口県教育庁義務教育課

全国学力・学習 状況調査の結果

「平成26年度全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。今回の「やまぐちっ子学力向上だより」では、平成26年度調査の山口県の状況を中心にお知らせします。各学校の分析や校内研修、保護者への情報提供等の参考として活用してください。

全体の結果

全体の結果については、次のとおりです。(詳しくは別添「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について」を参照してください。)

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/zen-gaku>

- 平均正答率を山口県と全国とで比べると、小・中学校ともに、国語、算数・数学のA・Bの全区分で全国平均を上回る結果である。

教科の結果

【小学校】

区分	平均正答率 (%)	
	山口県	全 国
国語A	73.6	72.9
国語B	57.8	55.5
算数A	79.5	78.1
算数B	58.6	58.2

【中学校】

区分	平均正答率 (%)	
	山口県	全 国
国語A	80.7	79.4
国語B	52.4	51.0
数学A	70.3	67.4
数学B	62.6	59.8

この結果は、児童・生徒の努力はもちろんのこと、学校の組織的な取組やコミュニティー・スクール等を生かした家庭・地域との連携など、学力向上に向けた取組が定着しつつあり、その成果がみられたものであると考えています。

しかし、B問題のように「活用する力」については課題が残ります。課題追究の目的、追究の方法や過程を説明したり、様々な資料から情報を集め整理して、調べたことを発表したりする等、児童生徒の主体的な言語活動が充実していくような授業改善が更に求められています。

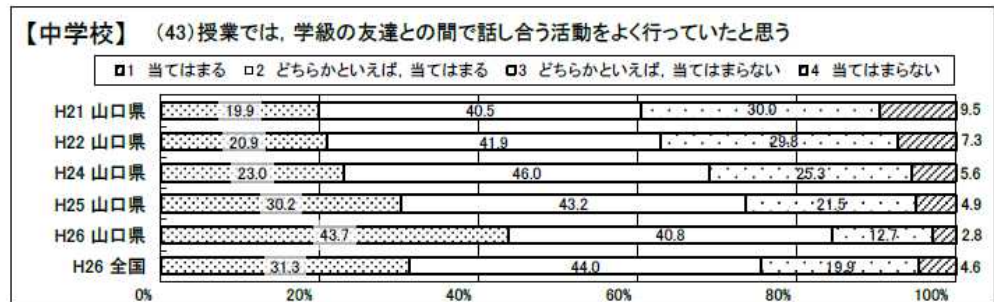
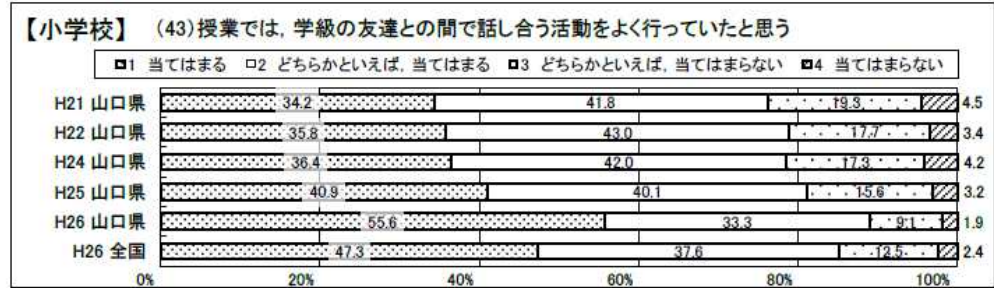
児童・生徒質問 紙の結果

望ましい状況

ねらいを明確にした授業	普段の授業で、授業の目標（めあて・ねらい）が示されていた、友達と話し合う活動や学習内容を振り返る活動をよく行った、と回答した子どもの割合が全国と比べて高い状況です。
自主的な学習	学校の授業の復習をしている、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている、と回答した子どもの割合が全国と比べて高い状況です。
自己有用感	先生がよいところを認めてくれている、自分によいところがある、と感じている子どもや、地域の行事に参加する子どもの割合が全国と比べて高い状況です。

授業で友達との間で話し合う活動について

○授業で学級の友達との間で話し合う活動をよく行った

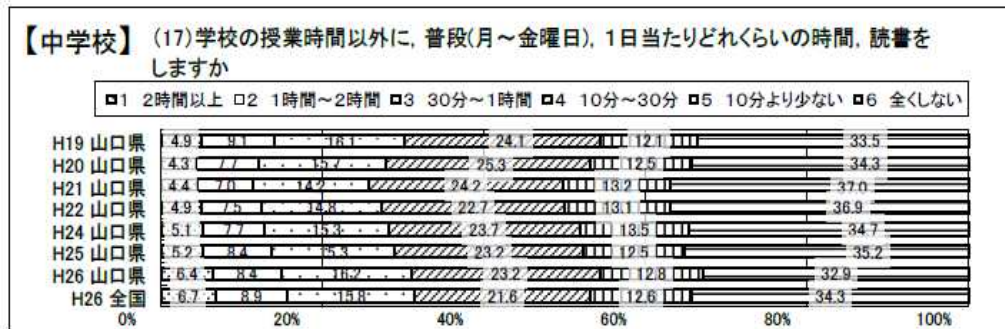
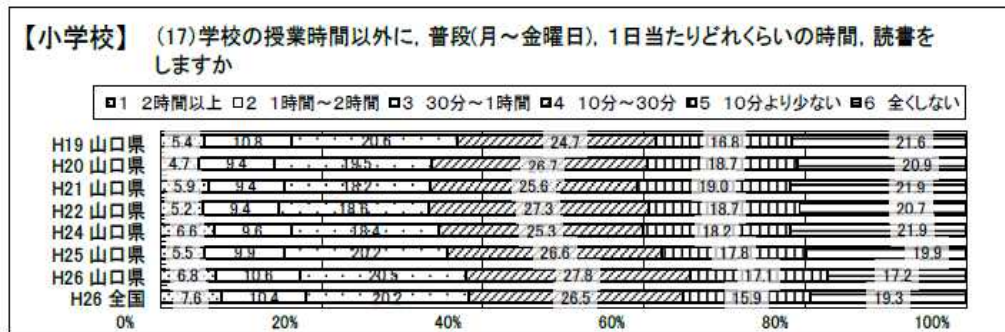


課題とみられる状況

家庭学習	学校の授業時間以外での学習時間（平日）は、年々改善傾向にあるものの、中学校では、1時間以上学習する子どもの割合が全国と比べて低く、改善が必要です。
生活習慣	1日当たり1時間以上テレビゲームをする子どもの割合は、全国と比べて低いものの、年々増加傾向にあり、生活習慣の一部に見直しが必要です。
読書	学校の授業時間以外に1日当たり30分以上読書をする子どもの割合は全国と同程度であり、読書時間は年々増加傾向にあります。しかし、読書を全くしないと回答した子どもが小学校では17.2%、中学校では32.9%おり、改善が必要です。

学校の授業時間以外での読書時間について

○学校の授業時間以外での読書時間（平日）



今後について

○今回の結果については更に詳細な分析を行い、山口県の状況を、学力向上だより等でお知らせします。

○各学校においては、文部科学省や県、市町から提供のあった結果をもとに、課題に対する方策を明確にし、学校全体での取組を確実に進めましょう。

各学校における課題の明確化と具体的な改善策の例

では、今後、学力向上に向けた指導の改善をすすめればよいのでしょうか。例として、3つほど紹介します。

【教科の結果から】 課題の見られる問題を各教科に応じて授業で取り上げ、系統的な指導を行う。また、ねらいと振り返り、言語活動の充実を徹底する。

【クロス集計から】 児童生徒質問紙や学校質問紙、教科の結果のクロス集計から、授業や学校運営の改善点を見出す。

【組織づくりから】 コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会において、情報を共有し、今後の指導体制について協議する。

例① 教科の結果から



本校の子どもたちは、表やグラフが添えられた文章を読むことが苦手です。根拠を表やグラフから見つけて、説明できないですね。

- ・表やグラフが添えられた非連続型テキストを教材化して、根拠や理由を明らかにして説明する授業の進め方について、皆で研修しましょう。学力向上推進リーダーや推進教員の先生に、アドバイスをお願いしてみてもいいでしょうか。
- ・各教科で特徴的な問題を取り上げ、指導方法について意見交換をするという研修にも取り組みましょう。
- ・授業で表やグラフを含む文章を取り上げ、子どもたちの説明文に朱書きを入れる指導等を通して、できていない点や読み取り方を具体的に示しましょう。



例② クロス集計から



授業の振り返りをしていると感じている子どもは増えていますが、学校質問紙の結果との開きもあるようです。先生はきちんとしているつもりなのですが……。

- ・振り返りの時間の確保のために、導入をコンパクトにしたり、板書計画を作ったりするなどの工夫を行いましょう。また、普段の授業において、教員が話す時間が長くなっていないかをチェックする等、時間の確保について考えてみましょう。



例③ 組織づくりから



結果については学校だよりでお知らせしますが、もっとよい公表の方法はないでしょうか。また、コミュニティ・スクール等の学校運営協議会では、どのように活用すればよいでしょうか。

- ・「課題の見られる問題」や「テレビゲームと教科の結果のクロス集計」など、本校がこれから特に力を入れていく内容については、実際の問題例を掲載したり、結果をわかりやすいグラフにして示したりする等、具体的な資料の提示は効果がありますね。
- ・学校の成果や課題、実践する指導改善について示し、保護者や地域に協力してほしいことを具体的に示す必要がありますね。

